

2020 vol.61

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集 東京大変貌2020

第2特集

見えてきた希望の光

復興へ歩むまちを訪ねて



Special Interview

話すことが大好き!
コミュニケーションを大切に
新しい仕事に挑戦していく

タレント

優木まおみさん



01 暮らしのカケラ⑩ 「町のアップデート」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす⑭

優木まおみさん タレント

話すことが大好き！ コミュニケーションを大切に新しい仕事に挑戦していく



07 特集

東京大変貌 2020

- 09 品川 高輪ゲートウェイ駅周辺のまちびらきに向け、次のステージへ
11 渋谷 東口地下広場に続き地下貯留槽も完成間近
13 四谷 公民連携の強みを生かし新たなランドマークが誕生
15 虎ノ門 国際的なビジネス拠点に進化する虎ノ門エリアに日比谷線新駅誕生

17 第2特集

見えてきた希望の光 復興へ歩むまちを訪ねて

- 17 まちの未来をひらく棚塩産業団地が完成 福島県浪江町
19 9年ぶりに動き始めた双葉駅 福島県双葉町
21 URが取り組む東日本大震災の復興支援
23 熊本地震からの復興を期する災害公営住宅が完成 熊本県宇城市、御船町、嘉島町、益城町



25 URのまちづくり最前線⑩⑪

- 25 さいたま新都心のサスティナブルな都市開発 さいたま市大宮区
27 防災性の向上で地域の魅力アップ！「住みたくなるまち」に 東京都中野区

29 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう！ その⑫

札幌市大通公園周辺(北海道札幌市)



31 楽しい団地

「サイクルシェア」で子育て世帯を応援します！ 富田団地(大阪府高槻市)

33 栗原心平のオトコめし② しらすと炒り卵のパスタ

34 素敵に飾るインテリアグリーン② 貝賀あゆみ

小さな多肉植物はまとめて飾って存在感を出す

34 防災、待ったなし！② 高荷智也

水害から命を守る！ 避難のポイント



35 プレゼント付きクロスワードパズル

36 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.61
2020年4月30日発行

発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 大日本印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の肩書きは取材時のものです。

表紙の世界

見慣れた街の一角に
新しい風景が加わると、
通り抜ける風も
それまでと違うように
思えます。
そんな感覚を絵にできたら、
と思い描きました。

イラストレーション 小林マキ



かくた・みつよ

作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「源氏物語 下」(河出書房新社)。



角田光代

暮らしのカケラ

町のアップデート

パ

ソコンで原稿を書くようになり、その原稿をデータで送ることを覚えたのは、二〇〇一年になってからだ。でもそれだって、「できるようになった」だけで、今のようには、ゲラ(校正刷り)チェックも添付ファイルで見えるようなことはなく、郵送かファクスで送ってもらった。担当者とはよく会っていたし、はじめて仕事を依頼する編集者ともちゃんと顔を合わせて打ち合わせをした。

その当時、顔を知らないままメールのみでやりとりして仕事が終わる、ということが私にはとても不思議に思えた。エッセイの連載なのに、担当者とも一度も会わずに終わることもあった。その不思議について、というより、その合理性について、私は皮肉まじりにエッセイに書いた。

以後、インターネットはどんどん普及し便利になって、同時に、私もだんだんと忙しくなっていくって、原稿を直接渡すためだけに外出する時間が取りにくくなった。その数年後には、打ち合わせの時間すら取れなくなって、担当者の顔を知らないままはじまる連載はふつうのことになった。

こ

の五年間、私はずっと源氏物語の現代語訳をやっていて、とにかく忙しかった。やってもやっても終わらない。それでもまったくほかの仕事をしないうけにもいかなかった(経済的な理由のため)、ときどき、あたらしい仕事の依頼を受けるのだが、直接会って打ち合わせが必要な仕事は、時間がとれないという理由ですべて断った。

変わるものだなあとと思う。顔を合わせずに仕事をする合理的な感じを皮肉っていた私は、旧世代に属するもの書きだったにすぎない。そういう人間こそが、真つ先に便利に乗っかるのだ。

そ

その長い現代語訳の仕事も、今年になってようやく終わった。対面の打ち合わせの要請があり、ひさしぶりに一日に二件の打ち合わせを予定に入れた。の日、時間の余裕を持って家を出たのに、先方の指定した喫茶店が見つからない。携帯電話で連絡を取り合って、ようやく店を見つけたときはすでに十分の遅刻。めったに遅刻をしたことのない私は激しく落ちこみ、次の打ち合わせにも早めに向かったのだが、またしても指定された喫茶店が見つからない。ふたたび携帯電話で遠隔操作されながらその店をさがすはめになった。

町

が変わったのだ。両方とも、よく足を運ぶ町なのだけれど、細部が大きく変わっていて、以前と同じつもりで歩いていると、混乱するし、迷う。今は東京じゅうがそんなふうに変わりつつある。二回も迷って二回も遅刻した私は、さらに落ちこんで、やっぱりもう顔を合わせて打ち合わせなんてするのはやめよう、と決意しかけて、いかんいかん、それではそのまま偏屈な老人になってしまう、変わりゆく町に出ていかないと、過去の町に閉じこめられてしまふ、と反省したのだった。



photo・T.Tetsuya



女性誌のモデルとして、またコメントーターとしても活躍するタレントの優木まおみさん。二人の娘を持つ母でもあり、最近ではピラティスのインストラクターとしての活動も開始。その生き方は、若い女性たちの憧れになっています。そんな優木さんに、新型コロナウイルスによる自粛要請のなか、ご自宅と編集部をつないでさまざまなお話を伺いました。

話すことが大好き！

コミュニケーションを大切に
新しい仕事に挑戦していく

優木まおみさん タレント

ピラティス指導者の活動を開始

女性誌のモデルやコメントーターなどを中心に活動していましたが、最近新たにピラティスのインストラクターを始めました。ピラティスとの出会いは、二人目の子どもを産んだ後、体の不調が続いて、なんとかしたいと思ったのがきっかけです。体を動かすことはもともと大好きなので、それまでもヨガやパーソナルトレーニングをやっていた



ピラティスのインストラクターとしても活動中。

ましたが、どちらかというと言務でやっていた感じ。ピラティスはそれとはまったく違って、はじめてハマったトレーニングでした。

ピラティスのコンセプトは、今、自分が感じている不調を、少しでもいいほうに変えていくこと。続けていくうちに、前はできなかったことが、少しずつできるようになる。インストラクターは、それを見つけて、褒めてくれます。私は褒められて伸びるタイプなので(笑)、まづそこがすごく合っていたんですね。

すぐ流行りものに飛びつく飽きっぽい性格なので(笑)、まずは100回続いたらインストラクターコースに進もうと目標を決めていたんですが、意外にあっさり、1年半くらいで達成。これは本当に好きなんだ、と真剣にインストラクター養成コースを受けることになりました。

仕事や育児をしながらだったので時間をとるのは大変でしたが、教える側の知識を得たことで自分の体がすごく変わりましたし、体のキレがよくなって、

仕事のパフォーマンスも上がりました。普段の生活でも、足を組んだり、肘をついたりという習慣がなくなって、肩こりや体の不調も消え、生きること自体がすごく楽になりました。

インストラクターの資格をとってからはスタジオでワークショップを行っていましたが、3月からはオンラインレッスンを始めました。実際のレッスンと違い体を通して指導することはできませんが、気軽な料金で、全国どこにいてもレッスンを受けていただけるのは、大きなメリットだと思います。

レッスンでは、ピラティスが好きで集まった方たちとのコミュニケーションも大切にしています。情報や近況を交換してもらえらるよう、オフイシャルなLINEグループもつくりました。レッスンの前後に質問の時間をとったり、皆さんと身近に触れ合えるように心がけています。ピラティスのインストラクターは、実技を見せることも大事ですが、わかりやすい表現で教えることがすごく重要です。私は、しゃべることが大好きな



ので、それを生かしながら、今日より明日、明日よりあさってへと皆さんの体をよりよくしていけるように、これからもスキルアップしていきたいと思っています。

大学入学を機に 故郷の佐賀から上京

出身は佐賀県で、佐賀市プロモーション大使も務めています。生まれ育った佐賀は、車で少し行くと一面田んぼという自然豊かな場所で、まわりはみんな親戚のような近さや安心感があります。大学入学と同時に上京して、すでに東京にいる年月のほうが長くなってしまいましたが、時間がたつとともに、故郷のよさを改めて感じています。東京はずっと憧れの場所でした。でも、東京学芸大学に入学して、4年間ずっと小平市にある学生寮暮らし。出かけるのもっぱら中央線沿線の三鷹や高円寺、中野止まりで、新宿や渋谷などは、学生時代、4、5回しか行ったことがありませんでした。

上京して20年以上になります



ゆうき・まおみ
1980年佐賀県佐賀市生まれ。東京学芸大学入学と同時に上京。2002年に芸能界デビュー。グラビア、キャスター、レポーターなどマルチタレントとして活躍。現在は女性誌のモデル、報道番組のコメンテーターなどを務める。2013年に結婚、2女の母。

別していたと気づかされたんですね。子どもは形などで判断せず、もっとフラットな気持ちで受け止めていたんだと思って、すごく反省しました。子育てに大それたポリシーはありませんが、まずは自分の足でしっかり立つ自立した女性になってほしい。人から声がかかるのを待つのではなく、積極的に自分から行動する、自分の足で一步を踏み出せる人間になってほしいと思っています。もうひとつ、子どもにも国籍や人種などの壁を持たない、オープンマインドな人間に育ててほしいと願っています。英語と中国語を習わせているほか、長女はインターナショナルスクールに通って、幼い頃からさまざまな

が、その頃と比べて東京は本当に変わりましたね。特に渋谷にはよく出かけますが、最近の容姿ぶりには驚いています。

以前は若者のまちなみという感じでしたが、再開発によって、すごくすっきりして、スタイリッシュな、大人も楽しめるまちなみになった気がします。今後は新しい通路ができて、移動もすごく楽になるとか。今からすごく楽しみにしています。

子育てと仕事の両立で 毎日大忙し

現在、6歳と3歳の女の子の母親としても忙しい日々を送っています。子どもを産んで、生き方も考え方も大きく変わりました。一番変わったのは、やはり時間の使い方ですね。普段は朝ごはんを準備して食べて、後片付けもそこそこに保育園に送り、仕事をし終わったらお迎え、夕飯の準備。夕食を終えたらお風呂、寝かしつけ……バタバタと大忙しです。

仕事は大好きなので、仕事と家庭とのバランスは常に悩ましいし、永遠のテーマだと思っています

人種の先生や子どもたちに囲まれています。そうした環境に自然になじんでいる様子を見ると、親として、とてもうれいすね。

プライベートルाइジオの 配信もスタート

この3月で40歳になりました。年月を経たシャネルのバッグがビンテージと呼ばれて価値が上がるように、努力やお手入れを重ねながら、いつまでも輝き続けられたら理想的ですね。そのためには、ピラティスであったり、美容であったり、いいものはどんどん取り入れていきたい。そして、それを自ら発信すると同時に私も情報ももらい、みんなでシェアしていきたいなと思っています。

新型コロナウイルスの影響で、世の中は大きく変わりました。私も外出自粛で家にいることが

います。でも、子どもたちも、あと10年もすれば手がかからなくなるだろうし、今だけの贅沢な悩みなのかもしれません。

先日、ハツとしたことがありました。お弁当にイチゴを入れたとき、パックの底にいびつな形のイチゴがあったんですね。私がそれを見て「これ入れないでさこうね」と言ったら、長女が「形が違って同じイチゴだよ。おいしいのは同じなんだから、それを入れて」と言ったんです。

それを聞いて、私は自分でも気づかないうちに、見た目では



増え、朝昼晩と食事をつくり、子どもたちや夫とゆっくり過ごす時間を持つことができました。

仕事の仕方も、これをきっかけに大きく変わるのではないのでしょうか。インターネットの発達もあって世界がすごく身近になったし、芸能人も個人的なメディアを持って発信することが、今後のトレンドになってくると思います。

私もこれをきっかけに、プライベートルाइジオ番組の配信を始めました。もともとアナウンサーになりたくて芸能界に入ったこともあり、しゃべること、人とコミュニケーションをとることが大好き。原点に戻って、自分の思っていることを発信したり、海外の友達をオンラインでつないで出演してもらったり、いろんなことにチャレンジしたいと思っています。今までずっと、「やらずに後悔するより、やって後悔するほうがいい」と思って走り続けてきました。これからは家族を第一に優先しながら、自分のペースで好きな仕事を続けていきたいですね。

特集 Megacity TOKYO

国際競争力を強化!
まちの価値をアップ!

東京大変貌 2020



品川

渋谷

四谷

虎ノ門

URが土地区画整理事業を担う品川駅北周辺地区を、西側(国道15号側)から望んだ光景。右手に品川駅、左手奥に高輪ゲートウェイ駅。14.7haに及ぶ大規模なエリアで国際交流拠点を目指したまちづくりが進む。

『UR PRESS』51号(2017年)の「東京大変貌」特集から2年半。

URが手がける都心の大規模なまちづくりは、さまざまな関係者の強力な連携で着実に進み、大きな変化を遂げている。品川、渋谷、四谷、虎ノ門の「今」を紹介する特集、高輪ゲートウェイ駅が開業した品川エリアからスタートする。



上/「提灯殺し」の異名をもつ、高さ制限150cmのこの道路を再整備し、東西の行き来をやすくするのも、このエリアのまちづくりの課題のひとつ。高さを広げ、車線も増やす。

左/打ち合わせをするメンバー。プロジェクトの計画段階から関わってきたURの荒井が昨年春にチームに戻り、関係者のモチベーションも高まっている。このURの八重洲オフィスは、専門知識をもつ人々の「集合知」で都心のまちづくりの難事業を乗り切ることを目的に、フリーアドレスを導入。打ち合わせがしやすく、会議もオープンなので、情報共有が自然に進むメリットがある。



駅開業に向けて現地確認するJR東日本とURの担当者。



周囲からの見やすさも意識してつくられた高輪ゲートウェイ駅。将来は駅前デッキと隣接建物、そして周辺建物間をつなぐデッキにより、2階レベルで回遊できる計画だ。

品川

Shinagawa

品川駅北周辺地区土地区画整理事業

高輪ゲートウェイ駅周辺のまちびらきに向け、次のステージへ

新たな国際交流拠点を目指し、大規模なまちづくりが進められている品川エリア。URが土地区画整理事業を担当する品川駅北周辺地区では、2024年のまちびらき、さらには第二東西連絡道路の整備に向けて動きが加速している。

異例の進め方で完成した新駅へのアクセス道路

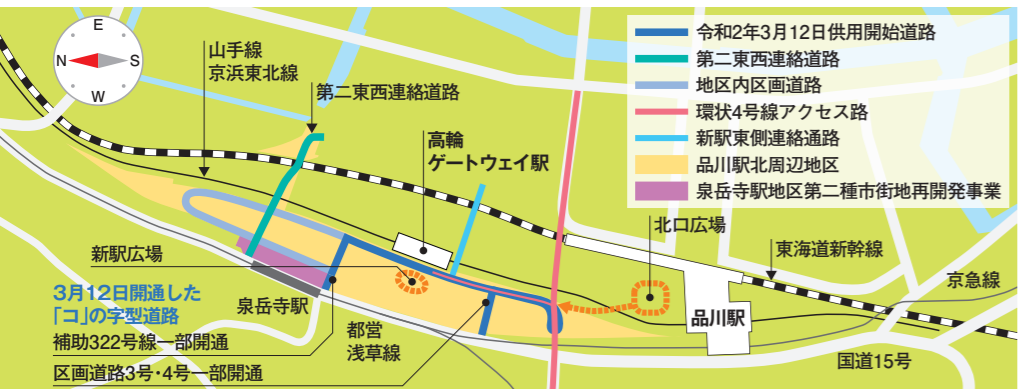
3月14日、高輪ゲートウェイ駅が開業した。山手線で49年ぶりとなる新駅がつけられたのは、田町駅と品川駅の間、JR東日本品川車両基地の跡地だ。かつて江戸への南の玄関口「高輪大木戸」(ゲートウェイ)があり、旧東海道の出入口として旅人の送迎でにぎわっていたという高輪。その地の歴史を継ぎながら、いま新たにこのエリアでは、国際的な交流拠点、グローバルゲートウェイ品川」を目指してまちづくりが進められている。品川駅の北側、線路に沿うように広がる「品川駅北周辺地区」で、URはJR東日本と共にまちづくりを進めている。

多数の関係者と連携し難工事に立ち向かう

し、ひとつずつ解決してくれました」と岡田さん。URのメンバーはそれぞれの担当者との綿密なやりとりを重ね、同じ目標に向かう仲間としての協力を仰ぎながら進めてきた。そんな背景があつて完成した道路であればこそ、駅が開業し、人々が整備された道路を歩いている姿を見ると感慨深いと口を揃える。

この道路が整備されたのは、昨年11月まで山手線と京浜東北線が走っていた場所。3月の駅開業に間に合うように道路を整備するためには、山手線などが走る中で工事を進める必要があつたため、URはJR東日本に工事を委託した。「鉄道線路内にURは入ることができないため、測量や現場管理もできず、URにとっては極めて異例の進め方。自分たちで確認でき

「東西を結ぶ道が少ないこのエリアで貴重な道路ですので、歩行者の通行を止めずに工事を進める予定です。ただ地上にはJR東日本



道路や公園などの都市基盤の整備や建物をたてる敷地の整備などを行う。



このプロジェクトの最大の地権者であり、「新しい品川をつくる」という目標に向けての心強いパートナーであるJR東日本の岡田さん(右)と山後さん(左)。

「品川をよくしたい」という思いで、まちづくりのコーディネート段階から常にURさんが先頭に立って関係者との調整を行い、目標を共有してくださるので、ありがたく、心強いと思います」

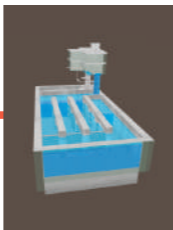
「品川をよくしたい」という思いで、まちづくりのコーディネート段階から常にURさんが先頭に立って関係者との調整を行い、目標を共有してくださるので、ありがたく、心強いと思います」



駅周辺の開発に並行して、エリアマネジメントの取り組みも活発化。屋外広告物掲出やイベント開催など、一定のルールにもとづき事業を実施するのが「一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント」(渋谷エリマネ)で、URは東急、東急不動産とともに事務局を担う。地下広場オープンとともに、渋谷エリマネがカフェを設置するなど、にぎわい創出事業を開始。その収益を広場の清掃費用に一部還元するなど、官民連携による新たな挑戦に注目が集まっている。



水害に強いまちを目指して工事が進む地下貯留槽。貯まった雨水は天候の回復後、48時間かけて下水に放流される。右図は水が貯まったときのイメージ。



渋谷駅東口地下広場に立つ東急の石田さん(左)とURの小出。地下広場は渋谷駅東口の地下1階から地下2階に位置する渋谷区の道路施設。地上はJR線と接続し、地下1階は「渋谷スクランブルスクエア」、地下2階部分も東急線・東京メトロの駅改札付近で接続している。写真右上の張り出し部分には渋谷川が流れ、人々は渋谷川の下を歩くことになる。



渋谷 Shibuya

渋谷駅街区土地区画整理事業

東口地下広場に続き 地下貯留槽も完成間近

100年に一度といわれる大改造が進む渋谷駅周辺。高層ビルが完成し、地下鉄銀座線のホームも移動、徐々に新しいまちが姿を現わし始めた。URは東急とともに、10年以上にわたりこのまちの基盤整備に取り組んでいる。



地下広場の壁面は、渋谷エリマネのにぎわい創出のための広告スペースとして活用される。オープン時は、若手作家たちのアート作品が展示された。

「全体最適」を図るのがURの役割
工事に伴う現場での細かな調整、工事の執行管理は東急。URは工事の調整の際のアドバイザー、設計変更・工程変更が生じたときの行政協議を主導している。そこには地下ならではの難題があると小出は言う。

「全体最適」を図るのがURの役割

「全体最適」を図るのがURの役割
工事に伴う現場での細かな調整、工事の執行管理は東急。URは工事の調整の際のアドバイザー、設計変更・工程変更が生じたときの行政協議を主導している。そこには地下ならではの難題があると小出は言う。

「引き継ぎの日程を決めたら、○月○日に稟議を回す、そのためには×月×日までこれが必要だ」という具合にスケジュールを細かく決めて、下水道局側に提示。それが守れるようフォローしていくのも、われわれの仕事です」

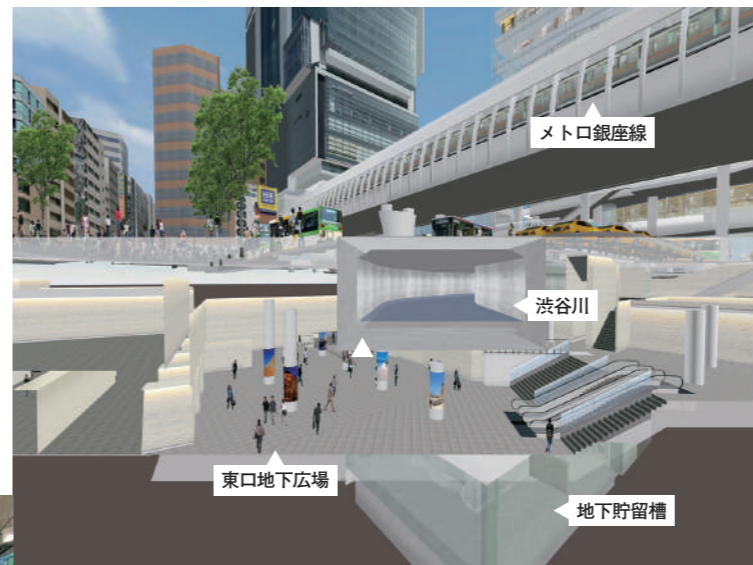
完成後、スムーズに引き継ぐために

「引き継ぎの日程を決めたら、○月○日に稟議を回す、そのためには×月×日までこれが必要だ」という具合にスケジュールを細かく決めて、下水道局側に提示。それが守れるようフォローしていくのも、われわれの仕事です」

「お客さまが戸惑っていないか、わかりにくい所はないか。机上ではわからない現場の息吹を感じてほしいのです」

田さん。

「お客さまが戸惑っていないか、わかりにくい所はないか。机上ではわからない現場の息吹を感じてほしいのです」



上には渋谷川、下には巨大な貯留槽
「渋谷スクランブルスクエア」と「渋谷フクラス」という2つの高層ビルが開業し、東京メトロ銀座線渋谷駅のホームが場所を移して新設されるなど、再開発の動きが加速している渋谷駅周辺。昨年11月1日には、「渋谷駅東口地下広場」(地下広場)がオープンした。

としても機能する。
渋谷駅街区土地区画整理事業を東急とともに施行するURにとつて、地下広場を整備し、オープンできたことは、ひとつの大きな節目となった。



上/文化・国際交流・スポーツ施設が入る建物。この手前に武蔵野の雑木林をイメージした木々を植栽した「コモレビの広場」(約3,300㎡)を造成中。ここには災害時に活用可能なマンホールトイレなども設ける。7月には「まちびらき」のイベントも企画している。
左/左に見えるのが住宅「ザ・レジデンス四谷ガーデン」。

レ四谷」。新宿区立の小学校や財務省の官舎などがあった約1・8ヘクタールの土地を生かして、URが再開発を手がけた大規模複合施設だ。

3月からオフィスへの入居が始まり、商業施設も次々にオープン。地域の憩いの場となる「コモレビの広場」が完成する今年の夏に、まちびらきを予定している。

**初期から参加して
お互いの強みを生かす**

小学校の統廃合と財務省官舎の廃止がほぼ同時期に決まり、新宿区と地元住民とで跡地利用検討を含むまちづくりの検討が開始され、URは事務局を担った。2006年には国と新宿区、個人の住宅や商店など多様な地権者たちが四谷駅前地区再開発協議会を結成。10年、URは協議会や行政である新宿区からの再開発の施行要請を受け、市街地再開発事業の施行者として事業を遂行する立場となった。

今回の事業では、民間のノウハウを導入して魅力あるまちづくりを推進するため、URは事業パートナーを公募。URが基本設計を終えた事業の初期の段階から、民



三菱地所の稲さんは「竣工はスタート地点。にぎわいが生まれ、徐々に生きた建物となるのが楽しみです」と話す。

間事業者にパートナーとして参画してもらおう公民連携の取り組みのひとつだ。

早期に事業パートナーを公募した理由を、URの沖津龍太郎は「民間の強みをこの事業に生かしたかったのです」と説明する。「事業の初期段階から民間事業者に参加してもらい、オフィスや商業施設の商品企画や設計などに関して、デベロッパーの知見やノウハウを反映することで、よりよいものをつくりたいという思いがありました」

公正な審査を経て事業パートナーとなったのは三菱地所株式会社。丸の内をはじめ数多くのオフィスビルや商業施設の実績がある。

URの基本設計を基にして、三菱地所の提言を踏まえて協議を行い、建物の価値向上となる設計変更を行った箇所もある。

「設計の早い段階から参加・提言させていただき、双方がより良い

開発を目指して議論を重ねたので、大変でしたが、やりがいがありました」と、三菱地所でこの事業を担当する稲友靖さんも言う。

「双方の意見がくい違ふことはありましたが、一つひとつの問題に対して、丁寧に合意を目指しました」と沖津。両社が行ったミーティングは、優に150回を超えたという。

稲さんも「私どもにとっても、再開発事業を数多く手がけ、ノウハウも蓄積されているURさんの地権者への丁寧な対応ぶりなど、学ぶところがたくさんありました」と振り返る。

「完成したビルに地権者さんが戻ってきて、ここで店舗を再開する姿を見ると、この仕事をやってよかったと思います」

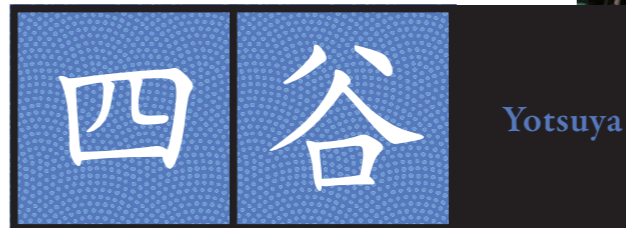
そう語る沖津には、事業パートナーとともに作りあげた「コモレ四谷」が、新しいまちのシンボルになる様子が見えているようだ。



「さまざまな地権者の方との協議は、時間を要しましたが、勉強になりました」と話すURの沖津。



右/JR四ツ谷駅四ツ谷口正面にそびえる「YOTSUYA TOWER」。ビルの手前には、外堀通りからつながる樹木が植えられた「出迎えの広場」がある。このビルだけで6,000人が就業すると予測されている。上/オフィスビルと低層部を貫通する歩行者通路「バサージュ」。この手前に「コモレビの広場」がある。



四谷駅前地区第一種市街地再開発事業

公民連携の強みを生かし
新たなランドマークが誕生

URが三菱地所とともに取り組んできた四谷駅前の再開発事業が、今年ついに完成。大規模複合施設「CO・MO・RE YOTSUYA (コモレ四谷)」が、四谷のまちの価値向上に貢献する。



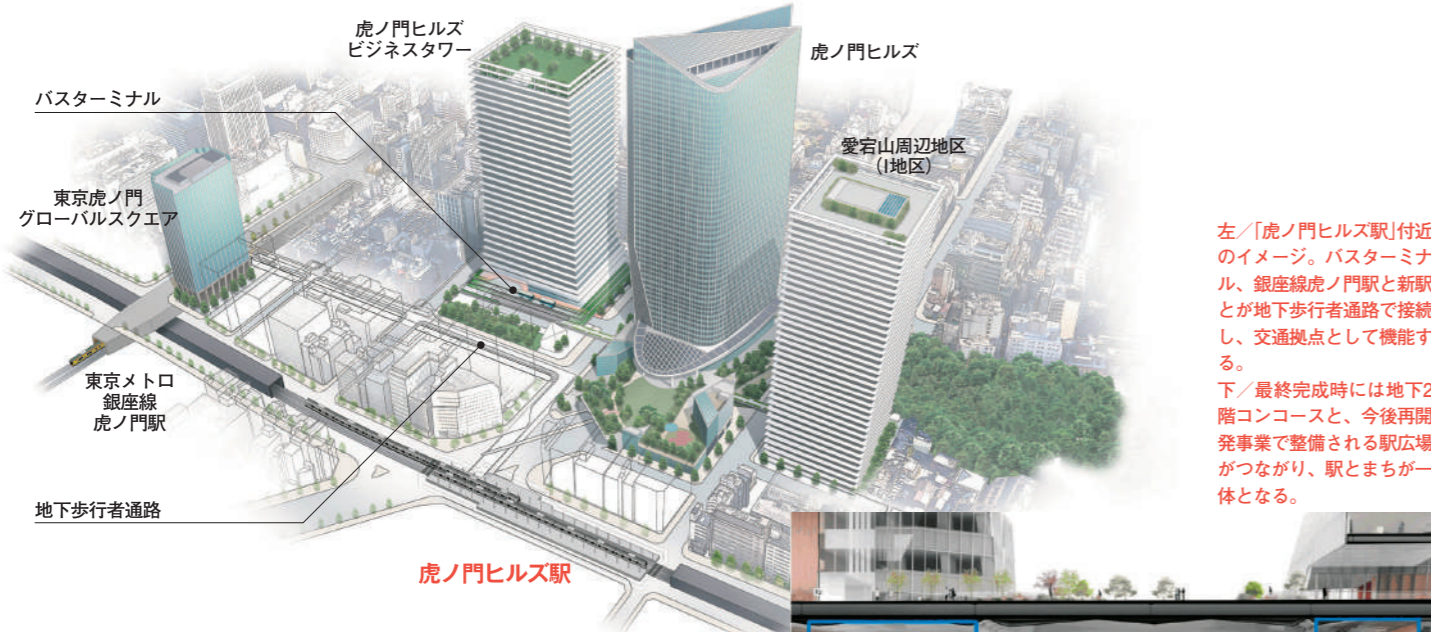
上/オフィスの天井高は2.8m、1フロアの面積は約2,000㎡、四谷エリアでは希少な広さであり快適性の高いオフィス空間が生まれる。

右/文化・国際交流・スポーツ施設が入る建物の地下1、2階にある「四谷スポーツスクエア」の多目的ホール。

大規模な跡地に
新しいまちが生まれた

JR四ツ谷駅から外堀通りに出ると、目の前に現れる高層ビル。1月末に竣工した31階建てのオフィスビル「YOTSUYA TOWER」だ。

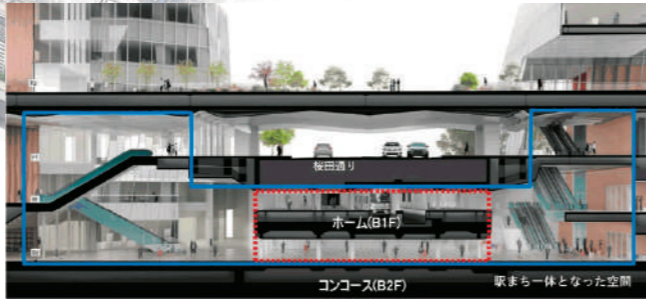
このビルを中心に、飲食店やショップなどが入る「CO・MO・RE Mall」や住宅、地下にスポーツができる多目的ホールのある文化・国際交流・スポーツ施設、教育施設で構成された「コモ



交通量の多い虎ノ門の地下で工事は着々と進む。中央は虎ノ門ヒルズ。その手前にある茶色の建物が「虎ノ門ヒルズ駅」の入り口になる。

地上の工事にはない特徴だ。期や予算に影響を与える。それはその特殊性を含めて、新駅整備について、様々な関係者に説明し

した。また、都市の地下の特徴として上下水道、ガス、電話、電気などのライフラインが埋まっており、掘削によりそれらが落ちないように、吊りながら工事をする必要があります」地下鉄工事では掘ってみないとわからないことが当たり前のようにあり、そのことが工期や予算に影響を与える。それは地上の工事にはない特徴だ。その特殊性を含めて、新駅整備について、様々な関係者に説明し



左/「虎ノ門ヒルズ駅」付近のイメージ。バスターミナル、銀座線虎ノ門駅と新駅とが地下歩行者通路で接続し、交通拠点として機能する。
下/最終完成時には地下2階コンコースと、今後再開発事業で整備される駅広場がつながり、駅とまちが一体となる。

工事中の「虎ノ門ヒルズ駅」のホーム。2019年8月撮影。



環状第二号線新橋・虎ノ門周辺地区日比谷線新駅整備事業

国際的なビジネス拠点に進化する虎ノ門エリアに日比谷線新駅誕生

まちと一体となる地下鉄新駅の整備に挑む！
周辺の開発事業との密な調整が求められるなか、URは事業主体として、設計・工事を担う東京メトロとタッグを組み、新駅整備を推進している。
6月、「虎ノ門ヒルズ駅」が誕生する。



上/およそ50年前に完成した構造物である日比谷線の直下を掘削して建造物を新設するため、既設建造物に影響を与えない工法を採用した。2020年2月撮影。



右/都市の地下には様々なライフラインが埋まっている。管が落ちないように吊る作業は主に人の手で行う。2019年8月撮影。

日比谷線全線開業以来56年ぶりの新駅誕生

1964年、前回の東京オリンピック開催年に全線開通した地下鉄日比谷線(東京メトロ日比谷線)に、今年6月、新駅が誕生する。その名も「虎ノ門ヒルズ駅」。駅周辺には複数の高層ビルの建設が進んでおり、臨海副都心方面につながるBRT(バス高速輸送システム)のターミナルもできるなど、大規模な都市再編が行われている。国際的なビジネス・交流拠点へと変貌を遂げつつある新橋・虎ノ門



新駅整備事業を担当するURの川田。新駅が今後のエリアの発展に寄与していくことを願っている。

て調整し、各関係者の理解を得て事業を進めていくのはURの大切な役割だ。

公共性の高い事業にURの力が活かせる

「私たちURは再開発事業等によるまちづくりに関しては様々な経験がありますが、地下鉄駅工事の経験はありません。今回、東京メトロさんをパートナーとして事業を進めることができたのは、今後に活かせる大きな経験になったと思

地区の玄関口として、新駅は大きな役割を担うことになる。
URは新駅整備の事業主体として、設計・工事を担う東京メトロおよび周辺開発事業者との連携を図りつつ、この大規模プロジェクトを進めている。

地下鉄工事は掘ってみないとわからない

新駅設置工事でもっとも難しかったのは、1日123万人という日比谷線の利用者に影響を与えずに工事を進めることだった。それに加えて、掘削が進む現場の真上を通る国道1号と環状2号線の流れも止めるわけにはいかない。工事範囲の上部を鉄製のパネルで覆い、車両の通行を担保しながらの工事だった。東京メトロの郡山剛さんは言う。



東京メトロ改良建設部の郡山さん。「URさんとの仕事は、互いに学ぶことが多いと感じている」と語る。

「日比谷線に影響が出る工程は、電車が止まった後の深夜1時から4時の間に線路を閉鎖して行いま



関係者を集めての会議を2週間に1回開催。関係者の調整はURの大切な役割だ。

います」とURの川田浩史は言う。「虎ノ門ヒルズ駅」が開業した後は、周辺に誕生する新しいビルとの接続工事が待っている。たくさんの企業と人が様々な立場で関わりながら、今後10年で虎ノ門エリアは大きく様変わりするだろう。「複数プロジェクトが林立する中、新駅整備のような、みなに求められる公共性の高い事業こそURの力を発揮できる。これからもエリア全体を支えるような事業に関わっていかれたらと思います」と川田は語る。
エリアの活性化を見すえて日々整備が進む虎ノ門エリア。国際競争拠点として、「虎ノ門」が世界の都市と肩を並べる日も近い。

見えてきた希望の光

第2特集

全国で復興支援に取り組んでいるUR。
多くの苦難を抱える現地の人に寄り添いながら、復興まちづくりを進めている。
この春、明るいニュースに包まれた福島と熊本の地を訪ねた。



安倍総理大臣、梶山経済産業大臣、田中復興大臣をはじめ、福島県の内堀雅雄知事や浪江町の吉田町長らが揃って行ったFH2R開所式でのテープカット。



福島水素エネルギー研究フィールド。ここで製造された水素を燃料電池車や燃料電池バス向けのモビリティなどに使用する予定。



水素製造拠点
オープン!

福島県 浪江町

まちの未来をひらく 棚塩産業団地が完成

燃料電池自動車「MIRAI」。安倍総理大臣はこの車を運転して開所式会場に現れた。



棚塩産業団地(49ha)。黒く塗られたように見えるのは敷地内に設置された68,000枚の太陽光パネル。「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」ではこの発電により水素を製造し、貯蔵・供給する。手前は飛行試験や操縦訓練に使用する無人航空機(ドローン)用の滑走路と格納庫を備える「福島ロボットテストフィールド」。海側は20mの断崖。

まちづくりの種が
大輪の花に

東日本大震災、そして原発事故から9年の時を経て、この春、URが基盤整備した浪江町の棚塩産業団地内に、まちの未来を照らす再生可能エネルギーを利用した世界最大級の水素製造拠点が誕生した。「福島水素エネルギー研究フィールド(以下「FH2R」)」だ。国、県、町が協力して福島に新たな産業の基盤をつくり、人材の育成・交流人口の拡大を目指すプロジェクト「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想」の一環で、経済産業省とNEDOが中心となって整備した注目の施設である。

3月7日の開所式には、安倍総理大臣をはじめ、梶山経済産業大臣や田中復興大臣も出席。「2050年、二酸化炭素排出実質ゼロ」を掲げ、水素社会実現の先駆けとなるまちづくりを目指す浪江町にとって、二酸化炭素を排出しないクリーンエネルギーである水素を製造・研究する拠点への期待は大きい。

浪江町の吉田数博町長は式典のあいさつで、全町民が生まれ育つ一体感があつたからこそ、モチベーション高く進めてこられたと所長の塩間は振り返る。建築工事の完成まで見据えた土量のバランスを、基盤整備の着工時より検討することで、手間やコストの大幅な削減も実現した。

塩間、山下と共にこの事業に取り組んできたURの中山誠は、浪江町のこれからの期待を寄せる。「浪江町では、棚塩産業団地をはじめ複数の働く場の整備が進められていて、スーパーマーケットや飲食店が次々とオープンしています。さらに今年の夏には道の駅も一部オープン予定など、復興のきざしが町内のいたる所で見られます。URは南産業団地や中心市街地活性化などの技術的支援を通じて、今後も浪江町のさらなる復興に向けてお手伝いを続けてまいります」

新たなにぎわい、生業を生み出すまちづくりに向けて、浪江町のURの復興支援が続く。

た地を追われ、苦しい日々が続くなか、「明けぬ夜はない」「一燈をさげて暗夜を行く。暗夜を憂うことなけれ。ただ一燈を頼め」と職員に伝え、一心不乱に進むべしと激励し、全力で復旧復興にあたってきたと振り返った。そして、新しい浪江をつくるためにまいてきた種の花とつが、この日、大輪の花を咲かせたと、水素製造拠点開所への感慨を語った。

準備1年、工事2年。 異例のスピードで

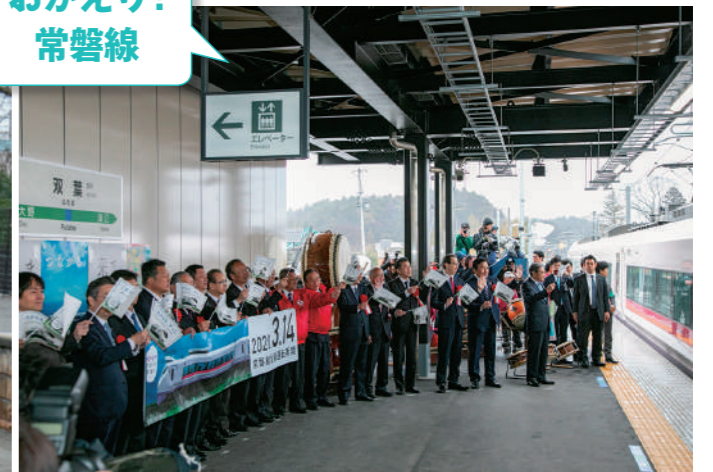
FH2Rがある棚塩産業団地内には、無人航空機(ドローン)用の実証実験施設「福島ロボットテストフィールド浪江滑走路」も整備されている。さらに来年度には「福島高度集成材製造センター」も完成予定。県産木材の需要を拡大し、林業の再生を目指している。かつては緑に覆われていたこの沿岸一帯が棚塩産業団地として整備され始めたのは、2018年春。町から委託され、URが基盤整備事業を担った。UR浪江復興支援事務所長の塩間は、「2年前の起工式のときには、正直なところタイトなスケジュールだと思いましたが、無事に完成してホッとして



浪江町の復興まちづくりに邁進してきたUR浪江復興支援事務所のトリオ。写真上から塩間、山下、中山。

9年ぶりに動き始めた双葉駅

おかえり！
常磐線



3月14日、双葉駅では、近隣住民や鉄道ファンなど、JR常磐線全線運転再開を待ちわびた多くの人が特急列車「ひたち3号」を出迎えた。東京都内と仙台を結ぶ直通特急「ひたち」は1日3往復。復興に携わる研究者やビジネス客、観光客の利用も期待される。



待ち望んだ鉄道再開 多くの人が祝福

小雨がちらつく3月14日。JR常磐線双葉駅のホームは、多くの人であふれていた。午前11時過ぎ、双葉町の標葉せんだん太鼓保存会の勇壮な演奏と「おかえり常磐線」の横断幕、たくさんの小旗に迎えられるのは、9年ぶりにこのまちに停車する特急列車「ひたち3号」だ。この日、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故で不通となっていたJR常磐線の富岡駅〜浪江駅間の20・8キロの運行が再開。JR常磐線は東京から仙台までの全線がつながった。特急列車の出迎えと、それに先



駅前はずまの玄関口。 人々が誇れる広場に

東日本大震災とその後起こった原発事故により、全町避難が続いていた福島県双葉町。10年目を間近に控えた今年3月4日、ようやくJR双葉駅周辺を含む帰還困難区域の特定復興再生拠点区域の一部区域と、避難指示解除準備区域の両竹、中野、中浜地区の避難指示が解除。今回のJR常磐線全線運転再開も合わせ、復興への歩みは少しずつ、そして着実に前へと進んでいる。



双葉駅前広場。まちの玄関口としての開放感、人々が集えるスペースを確保した。



双葉駅西口駅前URが整備を進めている「住む拠点」。基盤整備後は公営住宅や分譲地、生活関連サービスなどの建設が予定されている。



双葉駅に降り立った人々に、町職員から手渡して贈られた記念グッズ。エコバッグの中には、江戸時代から続く双葉ダルマとミニタオルが入っていた。

URは双葉町から復興に向けての事業を受託し、さまざまな支援を行ってきた。中野地区では「働く拠点」としての復興産業拠点整備、双葉駅西側地区では「住む拠点」づくりの住宅団地整備などを推進。今回お披露目となった双葉駅東側でも、基盤整備や駅前広場、道路の整備を担った。

UR双葉復興支援事務所長の森脇恵司は「新しい駅前には広場のスペースを確保し、ベンチなども置いて、人が集って滞留し、憩えるような空間にしたいです。町の方々をここを訪れる人を迎えるのに誇れるような玄関口を目指しました。今までは我々工事関係者しかいなかったのが、駅前でタクシーを待っている方の姿などを見ると、電車が走り出したのを実感しますね」と話す。

共に事業を進めるURの江田佳那子は、当事業を担当して1年。「双葉町の仕事を担当して、実際に現場でもできていくのを見



「駅前広場をイベントなどにぎわいづくりに活用してほしい」と話すURの森脇。

生活環境の整備、交流人口の拡大を力強く後押ししてくれることを確信する」と挨拶。伊澤史朗双葉町長も「今日は双葉町、そして我々双葉郡、福島県の再スタートの日。復興および地方再生のモデルとなる新しいまちづくりの実現のため、頑張っていきたい」と述べ、復興への大いなる意欲を感じさせた。



URの江田。「自分も地方出身なので、ここが自分の地元だったらという思いで、住んでいる人のことを考えてまちづくりを進めていきたい」

るのは、感慨深かったです。もともとまちづくりにはずごく興味があり、復興のお手伝いをしたかったので、自分にとってもかけがえない経験になっています」
双葉町では、URは引き続き中野地区での基盤整備をはじめ、2022年春頃の特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除と居住開始に合わせ、双葉駅西口地区での基盤整備、宅地や道路整備などの事業が続く。

「基盤整備とともに経済活動や人々の営み、生業や担い手のことも併せてまちの皆さんと一緒に考えて、2022年を心から祝福できるようにしたい。ぜひ多くの方に来ていただいて、復興していく姿を実際に見ていただきたい」と話す森脇。

この日を待ちわびた多くの人が、車窓から、そして駅に降り立って、JR常磐線の運転再開を祝った双葉町。震災発生以来止まっていた時間が、いま再び動き出した。

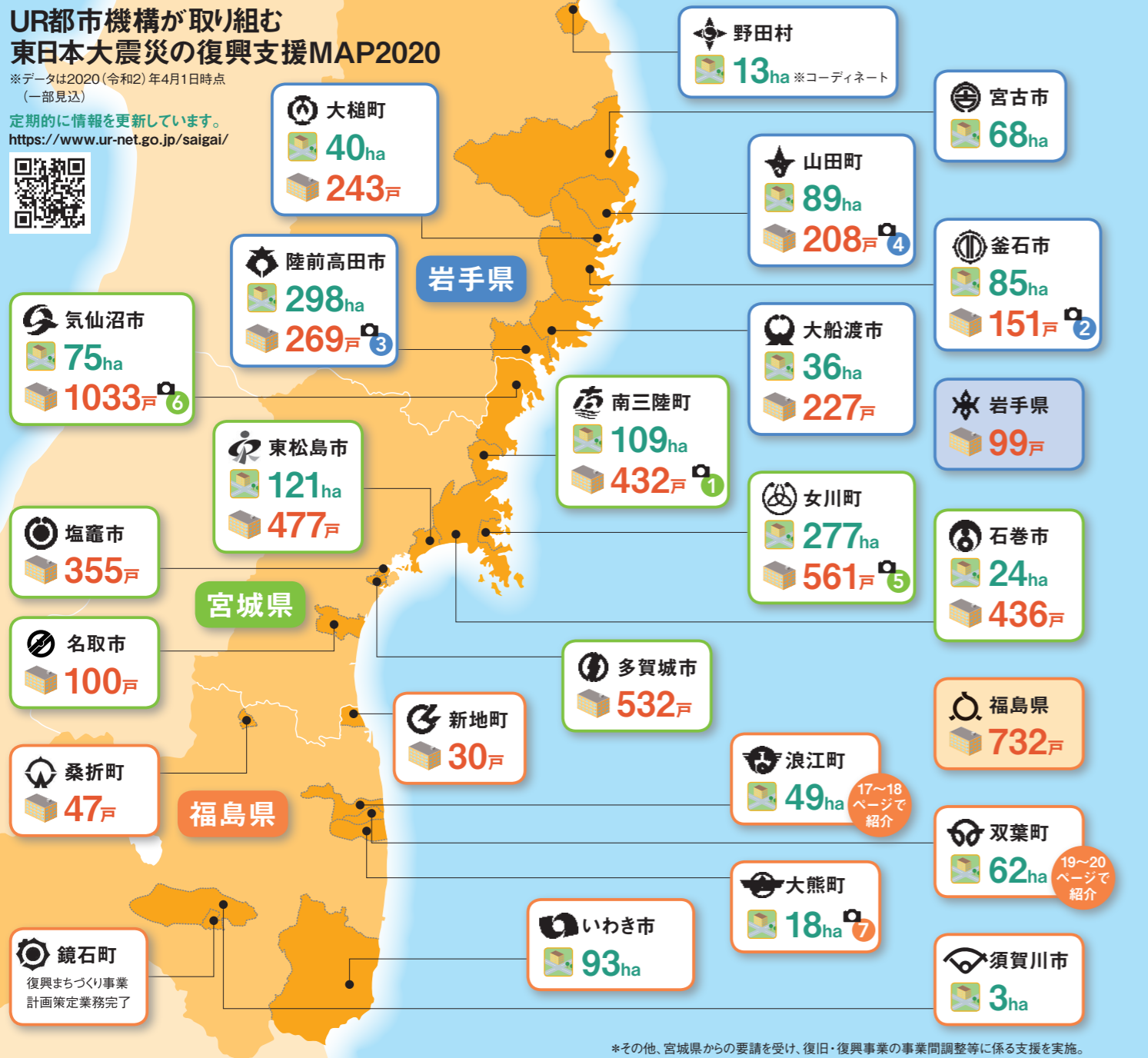


「JR常磐線全線運転再開記念 特急列車出迎え式」では福島県の内堀知事(写真)をはじめJR東日本の深澤社長、双葉町の伊澤町長が挨拶した。

UR都市機構が取り組む 東日本大震災の復興支援MAP2020

※データは2020(令和2)年4月1日時点
(一部見込)

定期的に情報を更新しています。
<https://www.ur-net.go.jp/saigai/>



*その他、宮城県からの要請を受け、復旧・復興事業の事業間調整等に係る支援を実施。

URが取り組む東日本大震災の復興支援

URは東日本大震災の発災直後から被災地へ職員を派遣し、復旧・復興支援に取り組んできました。これまでに26の被災自治体と協定などを結び、最大時には約460人体制で、復興市街地整備や災害公営住宅の建設などを実施。復興事業の進捗にとまない、多くの地域で新たな生活が始まっています。現在は原子力災害被災地域の支援にも力を入れ、ハード・ソフトの両面から復興まちづくりを一体的に支援しています。

生まれ変わったまち、暮らしを支える住宅



2 岩手県釜石市 鶴住居地区



1 宮城県南三陸町 南三陸町震災復興祈念公園



3 岩手県陸前高田市 高田地区



4 岩手県山田町 山田中央団地



5 宮城県女川町 女川駅前ロータリーの震災復興事業記念碑

受賞

「石巻市新門脇地区における地域コミュニティと協働した復興まちづくり」が「全建賞」を受賞

URが土地区画整理事業と災害公営住宅整備事業を担当した宮城県石巻市新門脇地区でのまちづくりが、すぐれた建設事業や取り組みに贈られる「平成30年度全建賞」を受賞しました。CM方式の採用により、設計・施工を一体的にマネジメントして早期復興を図った点や、設計段階から地元の方の意見を取り入れて進めた点、地元中学生と行った公園づくり、住民と連携したカーシェアリングの導入など、地域コミュニティの形成の取り組みが評価されました。



「女川駅前シンボル空間／女川町震災復興事業」が土木学会デザイン賞2019「最優秀賞」に

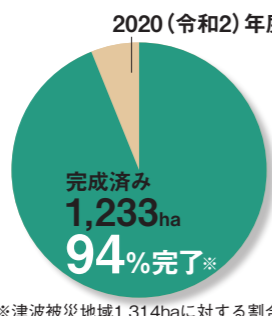


2019年度土木学会デザイン賞の最優秀賞に「女川駅前シンボル空間／女川町震災復興事業」が選ばれました。URが土地区画整理事業をはじめ震災復興支援事業を行ってきた女川町は、「海を眺めてくらすまち」をコンセプトにまちを整備。高台に住宅地を、海に近い女川駅周辺に公共施設や商業施設などを集めたコンパクトな市街地を形成。公民連携のまちづくりとランドスケープデザインが評価されました。

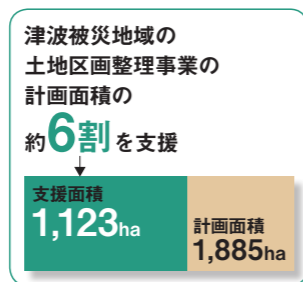
女川駅前レンガみち周辺(写真提供：女川町)



URが整備する復興市街地の総面積



※津波被災地域1,314haに対する割合



6 宮城県気仙沼市 鹿折地区竣工式



URが建設する災害公営住宅の戸数



7 福島県大熊町 大川原地区福祉施設



左/2019年11月に完成した御船町の町営住宅一丁目第1団地。歴史ある町の風景に溶け込む、シックな外観の鉄筋コンクリート造3階建ての災害公営住宅だ。花壇も整備されている。
下/エントランスに掲げられたのは、熊本県立御船高等学校書道部による書を焼き付けたモニュメントタイル。復興のシンボルとして、見る人を勇気づける。



3月に完成した益城町の馬水団地。

熊本県 宇城市、御船町、嘉島町、益城町

**熊本地震からの復興を期する
災害公営住宅が完成**

**453戸すべての
住宅引き渡し完了**

2016（平成28）年4月に熊本県と大分県を襲った「平成28年熊本地震」。URは震災発生直後から職員を派遣して被災建物応急危険度判定や応急仮設住宅建設などの復旧支援を行った。2018年には熊本市内に熊本震災復興支援室（以下「支援室」）を設置。宇城市、御船町、嘉島町、益城町と協定を締結して災害公営住宅を整備するほか、益城町で復興土地区画整理事業の支援を続けてきた。震災から約4年が経過した2020年3月。URが建設してきた災害公営住宅、合計12地区453戸すべてが完成、無事に引き渡しを終えた。そのなかのひとつ、御船町の町営住宅一丁目第1団地に



テラーを営んでいたというオシャレな米満さん夫妻。「ここに住むことができて、私たち恵まれてるなって、2人でいつも言っています」

住む米満洋一さん・忠子さんご夫婦に、お話を伺った。「自宅は半壊で、震災発生直後は16日間も車中泊を余儀なくされました。今は同じ3階に住むご夫婦と毎日ランドゴルフに行くのが楽しみでね。終の棲家だと思っています」と洋一さん。忠子さんも「とても見晴らしがよくて、夜は御船町の夜景がきれいなんです。広くて収納もたくさんあるし、近くに住む孫に「いつでも泊まりにきてよかよ」と言ってるんです」と笑顔で話してくれた。

御船町役場復興課の宮川登嗣さんは「町としては町営の住宅建設自体が約30年ぶりですし、3階建てのエレベーター付き住宅は初めて。マンパワーもノウハウもないなか、URさんには東北などでの復興支援の経験をもとに、さまざまなおアドバイスをいただきながら引っ張っていただき、本当に心強かったです」と話す。

**市町を豊富な経験と
ノウハウでサポート**

「昨年は台風やゲリラ豪雨などで工事ができないなどのハプニングにも見舞われました。そのつど職員や施工業者の方々と知恵を出し、新しい交流が既に始まっている。熊本城大天守の復旧も進み、中心部の再開発など明るい話題が増えている熊本県。新しい暮らし、新しい交流が既に始まっている。」



御船町役場で研修した熊本工業高等学校のインターンシップ生が、入居する方々のために各お部屋に置いた折り鶴とメッセージカード。

「御船町の町営住宅一丁目第1団地には花壇を設けたり、宇城市の松橋大野復興住宅ではお花見ができるように桜の木を植樹、響原復興

合って遅れを回復し、無事すべての災害公営住宅をお引き渡しすることができて安堵しています。これで熊本県におけるURの災害公営住宅整備事業は完了を迎えます」とUR支援室長の菊地裕明は語る。



2013年から2年間、岩手県で東日本大震災の復興に従事していたUR支援室長の菊地。[支援室職員の半数は東日本大震災復興支援経験者。熊本でその経験が生きました]

URが熊本県内の1市3町で手がけた災害公営住宅建設で、最も規模が大きく戸数が多かったのは益城町だ。前震、本震ともに最大震度7を記録し、熊本県内でも被害が最大だった。URは益城町全体の災害公営住宅671戸のうち、約半数の322戸の建設を担った。

「益城町ではより多くの戸数を整備する必要がありました。そのため鉄筋コンクリート造5階建てを計画しました」と、菊地が説明する。

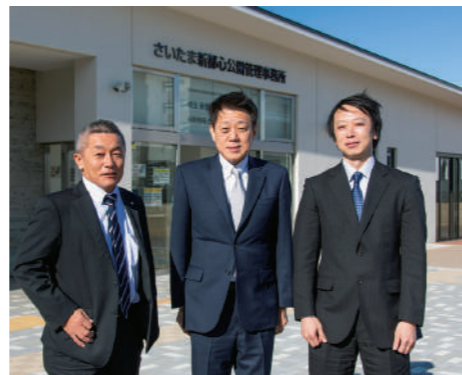


御船町役場で災害公営住宅を担当する宮川さん(右)とURの鈴木。「御船町には来年4月にコストコがオープン予定。復興への歩みが着実に進んでいます」



左／2018年10月に完成した、さいたま新都心公園。奥の管理棟はふだんは地域交流の場としてダンスや音楽教室など地域の人に利用されている。災害時には避難支援の拠点となる。

下／災害時に仮設テントとして利用できる防災パーゴラ。風雨をしのぐことができ、救護や支援の拠点にもなる。



左からさいたま市の下村課長、URの芦野、三菱マテリアルの西野グループ長。地区のさらなる発展に期待を寄せる。



URの
まちづくり
最前線
15

東側から望む北袋町一丁目地区。南北を結ぶ道路が整備されたことで、人の往来はもとより、物流や緊急車両、避難のためのルートも確保された。道路の手前中央がさいたま新都心公園。写真右手奥にさいたま新都心駅がある。

北袋町一丁目地区・さいたま新都心公園 さいたま市大宮区 さいたま新都心の サステイナブルな都市開発

北袋町という地名に馴染みがなくとも、さいたま新都心駅の南東側と聞けば、おおよその位置がイメージできる人は増えるだろう。その北袋町一丁目地区が生まれ変わり、住居や企業ビルが集まる市街地と、防災機能を備えた魅力的な公園が誕生した。

地域の人の喜ばれる 研究所の跡地利用を

大宮駅の南側、旧国鉄の大宮操車場跡地にURの土地区画整理事業により「さいたま新都心」というまちが誕生したのは2000（平成12）年のこと。さいたま新都心駅がつけられ、その西側に政府系機関（合同庁舎）が大手町から移転した。さいたまスーパーアリーナなどの施設もオープンし、多くの人が集まるエリアに発展した。そのにぎわいが今、駅の南東側の北袋町一丁目地区にも広がっている。

駅から約5分、そのエリアに入ってきたのは空の広さ、開放感だ。南北にゆったりとした道路が設けられ、その脇に公園やバスターミナルが整備され、企業の本社ビルや大型マンションの建設が進められている。この一帯はかつて三菱マ

テリアルの研究開発部門の主要拠点があった場所だ。

時を経て、さいたま新都心のサステイナブルな発展につながることを目指し、この地でさいたま新都心の新たな顔をつくろうという「北袋町一丁目地区の都市開発」の機運が高まる。そこで三菱マテリアルから跡地（12・7ヘクタール）利用のコーディネート要請を受けたURは、さいたま市とともに2014年に三者協議会を立ち上げ、市が「さいたま新都心ビジョン」で掲げた「広域的な都市活動の拠点機能の集積」に「にぎわいあふれるまちづくり」などの実現に向けて検討・計画を進め、三菱マテリアルとURで土地区画整理事業に着手。併せてURはこの地区の代表的な事業となる「さいたま新都心公園」を防災公園街区整備事業で整備し、2018年度までに完了した。研究所移転から通算20年、生まれ変わ

ただけるものになったと思います。さいたま市さん、URさんはじめ関係者のご支援、ご尽力に感謝しています」

防災機能と 景観デザインの両立

朝は散歩を楽しむ人々、昼間は芝生で遊ぶ親子、夕方は学生たち……と、完成以来、幅広い年代に利用されている「さいたま新都心公園」。災害時には広域的な防災活動の拠点となるため、随所に工夫や配慮がなされている。仮設トイレ用マンホールは20基、停電時も電力を供給できるソーラー照明とバッテリーも配置。緊急時には重車両が入れる特殊な構造、道路から段差のないフラットなデザインなども取り入れた。

さいたま市都市公園課の下村勝己課長によれば、市では以前から災害に強いまちづくりに力を入れてきたが、東日本大震災を経て市民からも公園に防災機能を求める要望が高まっているという。「まちが成熟していくなかで、これだけのオープン空間があるのは市にとつて防災面からも重要です。目の前のマンションの入居が始まり、園内でのイベントが増えれば、さらににぎわっていくことでしよう」と下村課長は期待を寄せる。

URの調整役の芦野光憲は、今回のプロジェクトには4つのポイントがあったと考えている。①目標達成に向けて三者

の役割が明確化され、着実に実行されたこと。結果として人やモノの往来がしやすいまちとなり、防災機能も強化されたこと。②景観面では、下村課長から指摘があった「既に開発されている『さいたま新都心のデザインガイドライン』に即して公共施設や建築が行われたこと」に加えて、さいたま新都心公園の隣地の三菱マテリアルや造幣局とのデッキデザインの統一化を図るなどの工夫がなされたこと。③防火樹林帯を整備し、地域の方に寄り添い「昔からある桜の木を残してほしい」などの要望を汲み入れながら、防災機能と優れた景観をあわせもった公園をつくり、地域の方に喜んでもらえること。④交通拠点となるバスターミナルや、さまざまなイベント会場ともなる、さいたま新都心公園などをベースに、今後の発展がさらに望めることだ。

さらにうれしいニュースも届いた。さいたま新都心公園が、優れた建設事業に与えられる「平成30年度全建賞【都市部門】」を受賞したのだ。評価されたのは、スペースの確保が難しい都市部の限られた面積のなかで、地域に必要な防災機能を備えつつ、良好な景観形成に努め、地域の方に愛されるオープンスペースを確保している点だ。

公園を拠点に今後どんな交流が展開されるのか。そのアイデアや可能性を語る人たちの目が輝いている。



公園内に設置されたソーラー照明。停電時にも電力供給が可能となる蓄電バッテリーを備え、携帯電話などの充電ができる。



さいたま新都心公園の芝生広場。ふだんは憩いの場やイベントスペースになっている。災害時の動線を妨げないように、子ども向けの遊具や大人向けの健康器具は芝生広場の周囲に配置。隣接する造幣局にちなみ硬貨をモチーフとした遊具も設置。ウォーキングに利用できる1周約280mの外周園路も整備されている。



左から中野区の久保さんと一松さん、URの伏見と宮崎。アイデアを出し合いながら連携し、魅力的なまちづくりを進めている。



弥生町三丁目地区まちびらき式



上／2019年10月31日に開催された「弥生町三丁目地区まちびらき式」。中野区の酒井直人区長をはじめ、UR東日本都市再生本部長の田中伸和もあいさつし、テープカットを行った。左／地域の避難場所である東京大学教育学部附属中等教育学校方面への道路の拡幅が進められている。拡幅されている部分とこれからの部分がある。



整備前。中野新橋駅からの幹線道路に面して建物があり、奥の住宅地に入ることはできなかった。



建物を取り壊され、新たに道路が整備された。通り抜けが可能となり、防災性と利便性が高まった。



上・右／27戸が入るコンフォール中野新橋。中野新橋駅寄りにエントランスを配置し、その周囲に地域に開いたスペースを設けている。季節を彩る植栽の成長が楽しみだ。



たに通り抜けが可能となった箇所がいくつかあり、道路の拡幅を含め現在も避難道路の整備を進行中。最終的には9本の避難道路が整備される予定だ。電線を地中化し、拡幅と同様の効果を得るため道路脇の電柱を撤去する準備も進んでいる。あつて当たり前のように思いがちな道路も、都心の住宅が密集する地域で新たに作るには、道路や公園などの用地確保のための移転をはじめ多くの人の協力や働きが不可欠で、手続も膨大だ。「防災まちづくりのために、住み慣れた場所を離れなければならない方の生活再建を第一に考えながら進めてきました。結果的に道路や公園が完成して、住民の方の利便性は確実に高まっていると思います」と久保さん。

「ボトムアップ」と「バリユアアップ」 移転してもらおう方の代替地や住まいの提案、確保も大切な仕事だ。URは川島公園の近くに代替地を用意し、賃貸の集合住宅「コンフォール中野新橋」も建設した。「コンフォール中野新橋」は1階の住戸に花台やテラスを設け、バルコニー側にも出入口がある珍しい造り。まちへの愛着を育んでもらえるように景観の統一を心がけ、立ち話ができるようなスペースを建物の周囲に確保。四季折々の花や果実が楽しめるような植栽にした。「ご近所との交流やグリーンを楽しむ住宅地を目指して、防災まちづくりにご協力いただく方が移転後もこれまでと同様の暮らしやご近所づきあいが継続できるように心がけました」と説明するのは、URの建築担当の伏見沙和子。結果として、道ゆく人から「ここに住みたいね」という声が聞こえてくるまちなみが形成されつつある。



URのまちづくり 最前線 16



上／都営アパートの跡地につくられた川島公園。防災パーゴラ、防災倉庫、ソーラー式照明灯、ソーラー時計などが備えられている。右／園内には防災井戸もあり、汲み上げた水をマンホールトイレの貯水槽につなげられる仕組み。左／マンホールトイレ用のトイレントを設置するための固定アンカーも装備されている。



緊急車両が入れないため、区では「避難用の道路ネットワークの整備」や「消防車が入れる幅員6メートルの避難路の確保」「沿道の建物の不燃化促進」などが課題となっていた。

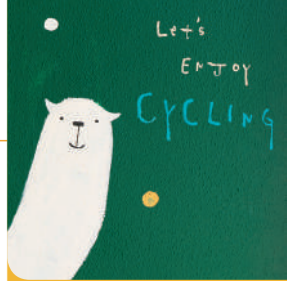
防災性の向上で地域の魅力アップ！ 「住みたくなくなるまち」に

各地で防災性の強化を通して「住みたくなくなるまち」づくりに取り組んでいるUR。弥生町三丁目周辺地区では、土地区画整理をはじめ避難道路整備支援などの防災性向上に向けた取り組みを中野区と一緒に進め、地域の活性化や住宅地としての魅力アップを目指している。昨年10月31日にまちびらきが行われてから半年、新たな息吹あふれる現地を訪ねた。

木造住宅の密集エリアの課題解決に向けて

東京メトロ丸の内線で新宿から6分、下車した中野新橋駅から7分ほど歩いた先に目的地的川島公園はあった。住宅地のなかに突然現れた、ふわっと開けた空間で子どもたちが走り回り、しゃぼん玉で遊んでいた。その様子に柔らかな眼差しを注ぐ、近隣の人の姿もあった。ここは中野区が取り組む弥生町三丁目周辺地区の防災まちづくりの一環として整備された、防災機能をもつ公園。災害時の利用も考慮しているため、防災井戸やパーゴラメントなどが装備されている。「もともとこの地域は道幅の狭い道路や、行き止まり道路が多く、災害時の危険性が高いことから、防災性の向上が課題でした」と話すのは防災まちづくりを担当する中野区の久保誠さん。道路幅が狭く

緊急車両が入れないため、区では「避難用の道路ネットワークの整備」や「消防車が入れる幅員6メートルの避難路の確保」「沿道の建物の不燃化促進」などが課題となっていた。中野区とまちづくりの基本協定を結んでいるURは、2016（平成28）年から区の要請を受けて都営川島町アパート跡地の土地区画整理事業に着手。避難道路や公園、集合住宅を整備するなど、中野区と共に防災性の向上と居住環境の改善を進めてきた。久保さんと共に防災まちづくりを担当している中野区の一松裕美さんが、整備前の同じ場所の写真を広げながら「この先にあった住居の方に移転していただき、道路を延ばしました。新宿の高層ビルまで見えるようになりました」と説明してくれた。弥生町三丁目周辺地区では、このように行き止まり道路の解消により新



DANCHI PICKS **楽しい 団地**

富田団地 大阪府高槻市

「サイクルシェア」で子育て世帯を応援します！

大阪府高槻市の富田団地で、昨年12月、これまで行っていた「サイクルシェア」サービスをリニューアル。自転車置き場をカラフルなイラストで飾り、貸し出す車種も変更した。団地自治会が中心となって行っているサイクルシェア。その活動の様子をご紹介します。

自治会活動が盛んな 富田団地

富田団地は完成から約50年。現在、自治会長を務める澁谷哲男さんは、団地ができてすぐに入居したひとりだ。自治会活動に関わるようになって約30年。現在は自治会長の立場で、「コミュニティづくりや団地の利便性向上を目指して、日々活動している。」

「この団地は行事が多いんですよ。1月のどんど焼きに始まり、3月のふれあいデー、4月の花見会……と月に1、2回は自治会主催のイベントがあり、子どもから高齢者まで年齢を問わずいろいろな人が参加しています。また、この団地は子育てがしやすいらしく、子育て世帯も多いのです。もちろん高齢者も多い。その人たちに何かできないか、ということ

子ども乗せ電動機付と、子ども用自転車を借りた中川さんと息子さんたち。高槻駅前まで買い物に行くときは、電動機付が便利だ。



で、8年ほど前、URさんから提案されたのが「サイクルシェア」でした。澁谷さんの説明に、URの沼尻紗央里が補足する。「子育て世帯をソフト面でも支援したいと、当時は子ども乗せ電動機付自転車が高価だったこともあり、自転車を貸し出すサービスを提案しました。同時に高齢者向けの三輪自転車も試験的に導入。自治会さんにも賛成してもらい、サービスを開始しました」

電動機付自転車 で 子育て家族を応援

サイクルシェア開始当初は、子ども乗せ自転車3台と、高齢者向け三輪自転車2台でスタートした。だが利用状況を見てみると、高齢者向け三輪自転車はあまり借りる人がいないことがわかり、昨年12月に車種を変更。電動機付自転車4台（そのうち子ども乗せタイプは2台）と、かっこいい子ども用自転車2台の計6台に変更した。

ほんの一時です。必要なときに、ここで簡単に自転車借りられるのは、とても便利です」
こう話すのは、2人のお子さんと自転車を借りてきた中川朋子さん。電動機付自転車を2台借り、家族で遠出することもあるという。
富田団地のサイクルシェアは、子どもを持つ家庭に浸透。いちど利用した人からの口コミで、利用者が増えている。最寄りの高槻駅周辺への買い物に、ときにはもっと遠出してサイクリングを楽しむんだり。富田団地のサイクルシェアは、家族の思い出づくりに役立っている。

富田団地自治会長の澁谷さん。団地は子どもも多く、自治会の活動も活発。「唯一の気がかりは、自治会を担う後継者がなかなか見つからないことです」と話す。



かわいいイラストが目印のサイクルシェア・ステーション。自治会事務所の前、URの管理サービス事務所の横にある。利用料金は、子ども乗せが5時間まで200円、子ども自転車2時間ごと50円。借りたい人は自治会事務所「まきたセンター」へ直接申し込む。

「電動機付自転車は高価ですし、子ども用の自転車が必要なのは、



昨年12月8日に行ったサイクルシェア リニューアルオープンイベント。世界大会でベスト8の実績を持つ選手をはじめ3人のプロのBMXライダーによるショーを開催。子どもたちのBMX体験教室も好評だった。

UR西日本支社の沼尻。「今後の利用状況を見ながら、さらに改良していきます」



素敵に飾る
インテリア
グリーン
vol. 2

小さな多肉植物は まとめて飾って存在感を出す

文・写真 貝賀あゆみ

造形が独創的で種類も多く、初心者にも育てやすいサボテンや多肉植物が人気です。100円ショップで気軽に買えるのもいいですね。100円ショップで売っているような小さな鉢植えは、一つだけで飾ってもお部屋の中で埋もれてしまいます。オシャレに見せるには、ぜひ何個かまとめて飾ってみましょう。トレイやカゴに集めることで、まとまり感と存在感が増します。単に集めて飾るだけでなく、素焼きの鉢にアクリル絵の具で色を塗ったオリジナルの鉢に植え替えて飾る

のもおすすめ。アクリル絵の具は乾きが速く耐水性があるので植木鉢にピッタリ。格子柄などの模様を描きたい場合は、マスキングテープを貼ってから塗り、絵の具が乾いてからテープをはがせばはみ出すことなくまっすぐに塗れます。消しゴム付き鉛筆の消しゴム部分に絵の具を付けてとんとん押し、水玉模様もきれいにできますよ。

写真のように、丸いトレイにまとめると円が重なり楽しい雰囲気。素焼きのミニ鉢もアクリル絵の具も100円ショップで手に入ります。ぜひ気軽に試してみてください！



幅の細いマスキングテープを使うと細かい模様をきれいに描き出すことができます。



かいがあゆみ
フォトスタイリスト。読者数14万人をこえるアメブロ公式ブログ「インテリアと暮らしのヒント」メンバー。暮らしを楽しむアイデアを自身のブログや雑誌等でも発信している。
<https://ameblo.jp/rogstyle/>

植え替えたならたっぷり水をやり、その後は土の表面が十分乾いたら鉢底の穴から流れ出るくらいしっかりと水をやります。日当たりの良い場所に置きましょう。

防災、待ったなし! ②

水害から命を守る! 避難のポイント

文・写真 高荷智也 (ソナエルワークス代表)

2018年の西日本豪雨、2019年の台風15号に19号と、近年大規模な水害が相次いでいます。命を守る「わが家の避難計画」を見直しましょう。

水害時の避難の原則

水害は地形により被害が生じる場所がわかっています。「ハザードマップ」で自宅が浸水や土砂災害に巻き込まれる地域にある場合は、浸水が始まる前に避難を完了させることが重要です。

「避難場所」と「避難所」は違う

避難先には「避難場所」と「避難所」の2種類があり、命を守るために移動するのは、高台や学校の上層階などに指定される「避難場所」です。「避難所」は学校の体育館など、生活ができなくなった方が身を寄せる場所で、原則として最寄りの学校や公民館が指定されます。地域によっては避難場所と避難所が異なる場合があるため、ハザードマップを見て、最寄りの「避難場所」を確認してください。

左が「避難場所」、まずここを目指す。右の屋内のようなマークは「避難所」で、命が助かった後に移動する。



避難場所は、有効な災害の種類が異なる。ハザードマップや現地の看板で、水害避難に使える避難場所なのかを確認する。

浸水で足元が見えない状態での屋外避難は、生命に関わる場合もある。屋内に留まることも検討。



事前に避難経路を歩いてみる

避難場所を確認したら、非常持出袋(リュック)を背負って、実際に避難経路を歩いてみましょう。できれば雨が降っている日に、大雨で水没しそうな場所や、用水路・側溝・マンホールなどの場所を把握し、安全な避難経路を確認しておきます。

自動車による避難

高齢者や乳幼児など、大雨時の徒歩移動が難しい家族がいる場合は、自治体から「避難準備情報」が発表された段階で、自動車で行うのが安全です。ただし、すでに自宅周辺が浸水し始めている場合は、自動車での避難すると身動きが取れなくなる恐れがあるため、原則として徒歩で避難するか、自宅の浸水しない高い場所への垂直避難を行ってください。



たかにともや
「備え・防災は日本のライフスタイル」をテーマに、自身が運営するWebサイト、各種メディアやセミナーを通じて防災を解説するフリーのアドバイザー。「備える.jp」 <https://sonaeru.jp>



栗原の心平のオトコめし

休日、頑張った家族のために料理する! そんなパパへの応援レシピ

しらすと炒り卵の Pasta

初 夏に作りたい一品です。旬のしらすに炒り卵を合わせてコクを出しました。味が絡みやすい。細めの麺がおすすです。しらすを別の魚や肉に替えても楽しめます。



くりはらしんべい
1978年生まれ。料理家、「ゆとりの空間」代表取締役社長。料理番組「男子ごはん」(テレビ東京系列)に出演中。
http://instagram.com/shimpei_kurihara

- 材料(2人分)**
- しらす.....100g
 - フェデーニ (1.4mmの Pasta).....200g
 - オリーブ油.....大さじ2 1/2
 - にんにく(みじん切り).....2片分
 - 赤とうがらし (小口切り).....小さじ1/2
 - 塩.....小さじ1/2
 - 板のり.....1枚(約3g)
 - 青ねぎ(小口切り).....5本分
- 【炒り卵】**
- 卵.....2個
 - 塩.....ひとつまみ
 - 黒こしょう.....適量
 - オリーブ油.....大さじ1/2

- 作り方**
- 炒り卵を作る。ボウルに卵を溶きほぐし、塩、黒こしょうを加えて混ぜる。フライパンにオリーブ油を熱し、卵液を入れてポロポロになるまで中火で炒める。バットなどに取り出しておく。
 - 鍋にたっぷりの湯を沸かし、塩、オリーブ油を適量(分量外)加える。フェデーニを入れて、袋の表示時間より1分ほど短く茹でる。
★1.5ℓの湯に大さじ1ほどの塩とオリーブ油少々を加えることで、Pasta同士がくっつきづらくなる。
 - フライパンにオリーブ油を熱し、にんにく、赤とうがらしを入れて中火で炒める。香りが出てきたら、しらす、茹で汁を切ったフェデーニ、塩を加えて中強火で炒め合わせる。小さくちぎった板のり、①を加えてさらに炒め合わせる。



★パスタはさっと湯を切る程度でOK。



④全体が混ざったら器に盛って、青ねぎを散らす。

★野菜などでよくかき回しながら炒めると、細かい炒り卵ができる。



パパのごほうび乾杯

お疲れさまの一杯はシャンパンまたはレモンサワーですっきり爽やかに! しらすの香りや塩気を楽しみながら味わいましょう。炒り卵は料理にコクが出るので、ポテトサラダに加えるのもおすすめです。



UR都市機構からのお知らせ

NEWS

「日経地方創生フォーラム」を開催しました

2月17日に東京 大手町の日経ホールで、日本経済新聞社とURは日経地方創生フォーラム「官民連携と地域連携で実現する地方創生」を開催しました。青森県むつ市の宮下宗一郎市長、徳島県美波町の影治信良町長による基調講演のほか、UR理事長の中島正弘も参加してパネルディスカッションが行われま

した。官民学の識者が、「人を呼び込む地域・まちづくり」をテーマに、官民が連携し、人々の交流を促していくことの重要性について議論を交わしました。

地方都市再生への取り組みの重要性について話すUR理事長の中島。



「人を呼び込む地域・まちづくり」をテーマにしたパネルディスカッションでは、各地の具体的な取り組みが紹介されました。

NEWS

大船渡市、山田町、釜石市から震災復興支援事業の感謝状をいただきました

東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県の大船渡市、山田町、釜石市。3市町からURが受託した市街地整備や災害公営住宅整備などの業務が2020年3月で完了しました。

3月18日、19日に市役所、町役場でUR岩手震災復興支援本部長の里見達也が業務完了報告を行い、戸田公明大船渡市長、佐藤信逸山田町長、野田武則釜石市長から、URが技術力、事業推進力を発揮して新たなまちづくりに寄与したことへの感謝状をいただきました。

大船渡市の戸田市長(右)とURの岩手震災復興支援本部長の里見。



前列右から3人目が山田町の佐藤町長。



前列左が釜石市の野田市長。

From Editors

今号の特集は、「東京における都市再生」です。各地区で共に事業を進める民間事業者のご担当者様にも取材をさせていただき、事業の具体的な取り組み内容や、苦勞ややりがい、生まれ変わるまちに対する期待、URとの連携内容などを伺いました。

私はその中で、基盤整備を担う工事担当者からのお話、「地下に入り組んだ鉄道や電気・ガスなどの既存インフラに留意しながら事業を進めることの難しさ」が特に印象に残っています。

どの地区も行政・民間事業者・URが一つのチームとなって事業に取り組んでいる、これこそが強みなのだと感じました。URは持てるノウハウや経験、情熱を注ぎ、これからも都市の再生に取り組んでいきます。(UR都市機構・広報担当OY)

次号のお知らせ

「UR PRESS」62号は2020年7月末発行予定です。

「UR PRESS」オンライン版もお楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。紙面にはない巻頭インタビューの動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS で 検索

<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress61/index.html>



YouTubeでもさまざまな動画がご覧いただけます

UR都市機構の公式YouTubeでは、UR賃貸住宅、都市再生、震災復興など、URのさまざまな事業や情報を動画でお伝えしています。「UR PRESS」オンライン版でこれまでに紹介した動画や、テレビCMなどもアップしています。ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/user/URTOSHIKIKO/>



プレゼント付きクロスワードパズル

パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 昔取った——さ、まかせておけ
- お店で支払いをするところ
- ちょうど。12時——
- 佐渡に保護センターのある鳥
- 円周は、——に円周率をかければ求められます
- 空でやせたり太ったり
- カナヅチで打ちこむものといえば
- 具をくんで食べるメキシコ料理
- 稲の苗を手に歌います
- 普通の自動車には4つ付いています
- そのウワサは——だ、少しも聞いたことがない
- 基準法 時間外——
- これを結ぶクツもあります
- はば ——つつら
- 日本も英国も——国です
- 南を表すのに使うアルファベット

タテのカギ

- 包丁の——が落ちてきたので砥石で研いだ
- 不動産のひとつ
- ドライバーで回すものといえば
- 病院で処方せんをもらったので、——で調剤してもらった
- 帯に短し——に長し
- ボクの番は終わったから——は君の番だ
- 慣れない英会話、——しか話せないけどなんとか意図を伝えられた
- を割ったようなさっぱりした性格
- 餅つきに使われます
- グレーともいいます
- 雑誌のひとつです
- URが手掛けた再開発事業により、東京の——駅前に完成した「コモレ——」
- スポーツ大会への参加——をした
- 東京の昔の名前
- みがかざれば光なし
- 彼の实力はまだまだ——だ、将来が楽しみだよ

1	6		12		18	20	
2			13	15			23
			10			21	
3	7				19		
	8			16			24
4			14				
5		11				22	
	9			17			

A B C D E

プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 1

北海道ミルククッキー
札幌農学校 3名様

北海道産の小麦粉とバター、ミルクをたっぷり使ったクッキー。噛むとミルクの豊かな風味が広がります。札幌土産として人気です。24枚入り。



PRESENT 2

さんまくん 3名様

三陸沖で水揚げされた新鮮なサンマをまるごとサクラのチップで燻製にした「さんまくん」を3本セットで。そのまま、またパスタや煮込みに加えても味わい深く、骨まで食べられる栄養価の高さも魅力です。



PRESENT 3

絵てぬぐい 2名様

歌川広重の『名所江戸百景』のひとつ「大はしあたけの夕立」をモチーフにした絵てぬぐい。隅田川にかかる新大橋の夕立風景が描かれています。ハンカチやふきん代わりに、またタペストリーとしても楽しめます。



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

※応募はがきに記載のQRコードからもご応募いただけます。

●応募締め切り

2020年7月31日(金)(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。



60号の解答

A ナ B ガ C レ D ヤ E マ F シ

1	7	ス	ヒ	ダ	リ	22	キ
2	オ	ヤ	10	ユ	ビ	19	ク
3	メ	キ	キ	ガ	ツ	キ	
4	ガ	11	ミ	14	ト	ウ	23
5	ネ	コ	15	イ	ン	ド	ヨ
6	ウ	9	マ	レ	ウ	モ	ウ
5	マ	ツ	ト	17	ア	キ	ナ
6	マ	ウ	ン	テ	ン	25	カ